

受賞した学校・図書館・団体の取組内容について

(1) 学校

① 長洲町立六栄小学校（児童数：236人 校長 城 祐治^{じょう ゆうじ}）

【取組内容】

平成28年度の学校における図書貸出冊数が前年度より大きく落ち込んだことを受け、児童一人一人の貸出冊数を増やすことを目標に掲げ活動している。また、読書冊数を伸ばすだけでなく、読書の質を高めることも目指している。

学校総体の取組として「チーム六栄」を掲げ、管理職のリーダーシップの元で児童の読書意識を高めている。読書祭り、先生方のお薦めの本紹介、司書体験、ALTによる読み聞かせ等を実施し、毎月の図書室行事の充実を図った。また、階段角図書紹介コーナーや読書の本など、図書室から児童への情報発信も常時行っている。地元の長洲町図書館との連携も行っており、国語や生活科の並行読書の際には依頼した本を届けてもらっている。

その結果、児童の図書貸出冊数はV字回復している（H28年度：20,104冊→H29年度：33,020冊）。平成30年度も11月の時点で26,000冊の貸出冊数に達しており、昨年度を上回るペースで伸びてきている。また、図書室に通い、本に親しむ児童も増えており、児童が読書を好きになってきている様子が感じられる。

必読書を多くの児童が読むようにカードやチェック表の工夫をしたことで、全ての必読書を読破する児童が増え、選定された必読書を読むことにより、読書の質を高めることにも成功している。



ALTによる読み聞かせ



読書の本

② 天草市立本町小学校（児童数：72人 校長 ^{かわだ}河田 ^{てるひこ}輝彦）

【取組内容】

図書委員会の活動を中心に、図書の貸出、ブックトーク、放送による図書委員会及び学校司書による読み聞かせ、校内読書旬間などの取組を実施し、積極的な読書活動が校内全体で行われている。図書室への来室数が少ない月には朝からの図書貸出を企画し、児童が本に触れる機会を積極的に設定している。校内読書旬間では、読書感想画コンクールや「しおりつり」など、図書委員会発案の企画を行い、読書活動の機運を高めている。

また、学校だけでなく、地域ボランティアによる読み聞かせを活用したり（月2回）、市立図書館からの移動図書と連携したりし（月1回）、児童が本に親しむ機会を数多く設定している。平成29年度から高校生による読み聞かせをスタートさせるなど、地域をあげて子供の読書活動をバックアップする体制ができています。

図書室を本の貸出の場だけとせず、情報センターとして位置付けており、各教科の調べ学習や発展学習での活用を促したり、単元関連図書を各学年の教室に貸し出したりしている。

これらの活動の結果、校内図書室におけるひと月の貸出冊数は約1,000冊にせまるという成果を得られている。



地域ボランティアによる読み聞かせ



しおりつり

③ 熊本県立高森高等学校（生徒数:113人 校長 飯田 豊^{いいた ゆたか}）

【取組内容】

学校図書館教育指導計画を踏まえ、始業前に全校一斉で10分間の「朝読書」に取り組んでいる。クラスごとに、学期に一度「図書館での朝読書」に取り組んでおり、全校生徒が図書館を活用する機会を設定している。また、朝読書に関するアンケートを実施し、生徒の読書の傾向や現状を把握し、書籍の購入計画に繋げている。

図書委員会の活動として、毎月発行する「図書館報」による展示特集の案内や、新着図書の紹介を行っている。図書館内の展示コーナーでは、時事問題や進路指導、イベント等に関連するコーナーを随時設けている。また、校内で生徒向けの講演が実施される際に必ず、関連書籍を紹介するコーナーを設置して、生徒の読書意欲の向上や館内の整備、読書に親しみやすい雰囲気づくりに努めている。

新入生宿泊研修時に教務部図書係作成「高森高校ブックリスト」から好きな本を選び、プレゼンテーションを行う「ビブリオプレゼンバトル」を行い、読書への関心を高めるための工夫を行っている。

生徒の保護者、卒業生、近隣住民向けの貸出も行っており、学校のホームページ上に図書館のページを設置して、貸出方法や開館日について情報発信を積極的に行っているなど、地域と連携した取組も行っている。

これらの取組により、平成29年度の生徒一人当たりの年間貸出冊数は21.6冊であり、県平均を大きく上回っている。



図書館報



文化祭でのパネルシアター

(2) 図書館

① 菊陽町図書館（館長 かわばた しんいち 川端 慎一 職員数15人）

【取組内容】

「菊陽町子ども読書活動推進計画」を元に、あらゆる機会、あらゆる場所において、すべての子供が自主的に読書活動を行うことができるような環境の整備を図るため、家庭、地域、学校、関係団体、ボランティア等と相互に連絡・協力しながら子供たちの読書活動の推進を図っている。

幼児に対するおはなし会をはじめ、年齢に応じたおはなし会を月に10回、年間100回程度実施して、子供が本とふれあう機会を提供するとともに、年齢別のおたよりを作成・配布して絵本の紹介をしたり、季節やテーマに応じた絵本の紹介コーナーを設置したりして子供の絵本に対する関心を高める活動を行っている。また、ブックスタート事業を実施し、6～7ヶ月の乳幼児健診にて絵本のプレゼントと図書館の紹介や読み聞かせを行い、赤ちゃんの時から絵本に親しむ機会を作り読書習慣の土壌を育てている。

小学2年生の図書館見学、中高生の職場体験の積極的な受け入れを通して子供の読書への関心を増大させ、学校との連携も図っている。また、ボランティアステップアップ講座を開催し読み聞かせボランティアのスキルアップを図るなどボランティアとの連携・協働も図っている。

このように様々な事業・行事に継続して取り組み、乳幼児から中高生まで幅広く本に親しむ機会を提供することにより、子供の読書活動推進に積極的に取り組んでいる。



赤ちゃんと楽しむおはなし会



読書感想画コンクールの展示

(3) 団体

① シモンちゃん's (代表 ^{とみやま} 富山 ^{みちえ} 庸江 会員数 8 人)

【取組内容】

天草市倉岳町で活動している読書ボランティア団体である。

地元の小学校では毎週木曜日の読み聞かせと年に 1 回のパネルシアターを実施し、中学校では第一木曜日に読み聞かせを実施している。他にも、不定期で地域の幼稚園や保育園及び特別支援学校へ出向き、年に数度読み聞かせを実施している。読み聞かせをする際には、読み聞かせ日誌を通し、学校と情報交換を行っているため、学校側の現状に則した読み聞かせの実施ができています。

また、児童用の図書貸出袋を作成したり、小学校の校内童話発表会を参観し、代表に選ばれた児童への指導を行ったりする等、きめ細やかな対応ができています。

学校外での活動も行っており、地域コミュニティセンターの図書室開設の際には、図書室の環境整備を行い、地域の憩いの場としての「図書室カフェ」としても活用できるように工夫を凝らした。その結果、子供から高齢者までの幅広い層からの図書室の利用が得られている。

学校や地域と連携し、子供の読書活動推進に寄与しており、子供の読書量の増加や家庭読書の定着率の向上等の成果をあげることができている。



小学校での読み聞かせ



特別支援学校でのパネルシアター